

○氏は政令指定都市で、運送業を二十年以上営んでいます。今から十数年前に、幹部の突然の退職と事故が重なり、経営危機に陥りました。助言を得るため倫理指導を受け、会社の現状を伝えると、講師は○氏の生い立ちや両親、妻との関係ばかり質問してきます。「経営の相談をしているのに、なぜ、家族のことなんて聞くんだ」と怪訝になっていた○氏に、講師は「家庭は人間関係の基本です。苦難の原因である不自然な心の根幹は、家族に対する姿勢と関係しているのですよ」と諭したのです。

○氏は創業以来、多忙で、妻とは長年まともな会話をしていませんでした。「話さなくても、わかっているだろう」と、仕事一筋で過ごしてきました。家庭内が冷え切っている、自分はんばっているんだ」と、何事も悪いのは妻のせいにしていました。指導を受けた後、○氏は、妻への挨拶の実践を始めました。一カ月ほどが過ぎて、ぎこちないながらも「おはようございます」と言えるようになった頃、妻の対応が変わってきたのです。○氏は、妻が自分に無関心だったのではなく、自分が妻の気遣いに感謝することもなく無関心だったことに気づきました。また、会社では「業績不振や社内のもめごと」は社員の責任で、私には関係がない」と、社員に思いやりを持ってこなかったことが、様々な苦難の要因であったと反省したのです。

今では妻は会社の役員として、社員と○氏の間に入り、伝えにくい話を橋渡しする



## 幸せを生み出す

### 夫婦愛和の力

までになりました。○氏は家族や社員、周囲に支えられていることに気づき、感謝の気持ちを持って倫理経営を行なっています。倫理研究所・丸山竹秋会長は経営と夫婦の関係について次のように記しています。

プラスとマイナスに対立相反する男と女が夫婦となり、人間生活の基本的調和態勢を形成する時に、子女の誕生育成のみならず、当事者の事業、家事などの円滑生成繁栄があらわれる。(中略) 責任の重さに比例して、その立場にある人の、そうした根本的なことは影響するところが大きくなる。親子の問題も影響するところはあるが、夫婦のことは生産育成と直接的に関係しており、極めて重大なのである。

〔新経営倫理学〕丸山竹秋著

夫婦は生活を営む単なるパートナーというだけでなく、一家の健康と発展と幸福を生み出す力を秘めています。

弊所は二〇一六年に、「夫婦の倫理観」に関する大規模調査を実施しました。十項目の中で共感できる項目を回答してもらったところ、「夫婦は幸福を生み出すことができるところ」「夫婦は幸福が高かったことからわかる」と対する共感度が高かったことからわかります。

夫婦はあまりに身近な存在であるため、つい有り難さを忘れ、不自然な心が端的に強く表れるのです。

夫婦は一对の反射鏡です。妻(夫)は自分を教え導き、鍛えてくれる存在です。逆境を乗り越える力は、夫婦愛和にあることを忘れず、相手の声に耳を傾け、感謝の言葉を伝えて、良き関係を深めたいものです。